

集落営農法人だより

平成24年度第4回検討部会 新たな担い手の確保による持続可能な法人経営の実践 ～若手就農希望者にとって魅力的な集落営農法人とするためには～

11月8日、山口市のパルトピアやまぐちで「平成24年度第4回検討部会」を開催しました。検討部会には、34会員法人62人、農大生・やまぐち就農支援塾生55人、関係機関44人の161人が参加しました。

今回は、若手就農希望者にとって魅力的な法人である要件を、3名の若手就業者へのインタビューや班別に分かれての検討を通じて、参加者全員で探っていました。



会場の様子

○開会・あいさつ



齊藤幹事

今回の検討部会は、「若手就農希望者にとって魅力的な集落営農法人とするためには」というテーマでございます。
農大生・やまぐち就農支援塾生等の若い方の活発なご意見をいただきながら、盛大かつ意義ある会となることを期待しています。

○問題提起「コーホート分析から見る山口県の農家構造とアンケート調査から見える法人の後継者像」

山口県農林総合技術センターの経営技術研究室永久栄作室長より、報告をいただきました。(以下概要)

○ 山口県の農家数

	1985年	2010年
販売農家	58,264人	26,211人
自給的農家	20,394人	16,964人



永久室長

- 山口県の中心となる農業者の平均年齢は70.9歳。(2010年)
- 山口県の農家人口(コーホート分析による)
2010年: 64,086人 ⇒ 2025年: 25,403人

- 市町村合併していない地域の 2025 年の農家人口は、2010 年の人口の 30%以下になる予測。役場が遠い・廃校がある地域は人口の減少が早まり、自宅通勤圏内に兼業の職場がある・再生産年齢割合が高い地域は人口の減少が遅れる。
- 若者を雇用できる法人になることで、予測は変えられる。また、農業以外でも地域に定住してもらう仕組みを作ることが重要。
- 法人育成は、しっかりとした経営理念を持ち、理念に向かって着実に経営戦略を進める事が必要。

<以下、経営継承アンケートの途中結果>

- 現代表理事よりも 20 歳以上離れた後継者候補がいる法人は 43%。農大生や支援塾生等を後継者として従業員に雇用する法人も見られる。後継者の平均年齢は 37 歳で、法人の情報は家族・親戚、法人構成員、就農説明会等から入手。
- 後継者は普通作物や露地野菜をはじめ、加工や総務を任される者もいる。機械操作力や栽培技術力は伸びているものの、経験の少ない販売・管理指導力が伸びていないと感じている。
- 後継者は法人行事・地域行事の参加率が高く、集落の後継者になっていると言っても過言ではない。
- 今後も法人の構成員としてやっていきたい就業者が多い。また、就業環境として 9 割が集落内での定住を希望している。集落内定住の条件としては、住居の確保や定住先の家賃等の補助をはじめ、生活、教育、配偶者の就業先など家族に対する条件整備が大切である。
- 法人の労務環境として、給与規定、健康保険、労災保険、雇用保険、賞与、残業手当、扶養手当など安心して働ける条件整備が求められている。
- 今後の展開にあたり法人間連携（オペレーターの相互活用、合同研修、機械の共同購入・共同利用等）を求めている者は 91%を占めている。
- 代表者への就任意向は 46%。
⇒ 経験を積ませ、地域の担い手として育てることがコーホート予測を打ち負かす一手法である。

○実践報告「私たちが感じる集落営農法人の魅力」

J A山口中央会の山邊参与がインタビューをされて、法人の若手就業者である 3 名の方に話を伺いました。

(農) ファームつるの里 仁多 新太郎 さん
 (有) 名田島農産 川本 匡平 さん
 (農) アグリ中央 岡藤 佳恵 さん
 J A山口中央会 山邊 勝 参与
 法人や農大生・支援塾生から 3 人に対して多くの質問や意見が出るなど、インタビューは賑やかに進みました。(以下概要)



インタビューの様子

- 神奈川県育ちですが、祖父がいる山口県で開催された就業ガイダンスで（農）ファームつるの里と出会いました。就業前に法人の作業を手伝うこともしました。
- 住宅は、法人に地区内にある空き家を社宅として用意してもらいました。
- 仕事は水稻栽培の責任者をしています。分からないことは積極的に聞いて、随時研修の場を設けてもらっています。
- 消防団や清掃活動・祭にも参加し、地域とのつながりを深めています。
- 法人は前向きな考えを持ち、自分で考えて動ける人を求めていると思います。
- 法人内の若者3人で、いろいろな提案をしており、やりがいがあります。



仁多さん

- 広島県で育ちましたが、親の転勤で山口県に来て、興味があった農業大学校に入りました。農業大学校の研修で（有）名田島農産と出会い、就業を決意しました。
- 住居は法人の地区外になりますが、新山口駅近くのアパートを借りています。
- 餅や米粉の加工を担当し、販売POPやエクセルのシートも作ったりしています。



川本さん

- 地域の祭用の餅を作ったりして、地域貢献をしています。また、農大祭の餅を作ることによって農大との交流も持っています。
- 法人は一芸がある人（自分の場合、経理）を求めていると思います。
- 会社の継続に向け、様々な提案をしていこうと責任感を持ち取り組んでいます。

- 以前JAに勤めていましたが牛に関わる仕事がしたくて、地元の肥育農家を手伝うようになりました。その時、恩師である日置農業高校の先生から声をかけられ、（農）アグリ中央で働くようになりました。
- 牛を飼うための条件は、法人に整備していただきました。
- 地元出身なので、家や地域と関わりに不安はありませんでした。
- 仕事は、牛関係（ミルクやり、餌やり、種付け）を任せてもらっています。
- 法人は、相談できる人を求めていると思います。知ったかぶりは恥ずかしいことです。
- 自分がやりたいことをやっているのでもってやりがいがあります。目標を持ってやりがいを作るのは自分自身です。



岡藤さん

○検討・協議「若手就農希望者にとって魅力的な集落営農法人とするためには」

午前中に行われた問題提起、実践報告の内容を踏まえ、法人、農大生・支援塾生、関係機関が10グループに分かれて検討・協議を行いました。標記テーマに沿って自由に協議した結果を、最後にグループごとに発表しました。(以下概要)

【1班】

●タイトル

「やっちゃろう！まるごと農村売っちゃろう!!」

●キーワード

販売（販路の拡大等）、コスト（無駄を省く等）、生産（増産、JGAP等）、品質（品質向上等）、条件（補助金増加等）、多角化（6次産業化等）



【2班】



●キーワード

収入・福祉（安定した給料制、社会保障の充実、住宅整備、休日等）、いきがい（仕事内容、将来性、責任等）、コミュニケーション（同世代、フォロー体制、地域行事への参加、自分の思いが通る等）、生活環境（学校、病院、子どものいる世代、交通の便利さ等）

【3班】

●キーワード

農大生の法人に対するイメージ（大変そう等）、農大生の法人に入る上で不安（人間関係等）、法人が求める人材（やる気がある人等）、雇用の障害（家がない等）、経営安定化（ブランド等）、農大生の武器（加工販売等）、地域に入っていくためには（地域活動に参加する等）、情報発信の必要性



【4班】



●キーワード

法人の経営改善（周年雇用等）、所得の確保が難しい・待遇が不明確（社会保障等）、暮らしに対する不安（地域的な問題等）、法人に対する情報不足（協議の場を設ける等）、農業技術に対する不安（資格の有無等）、就業継続の不安対策（見習い期間導入等）

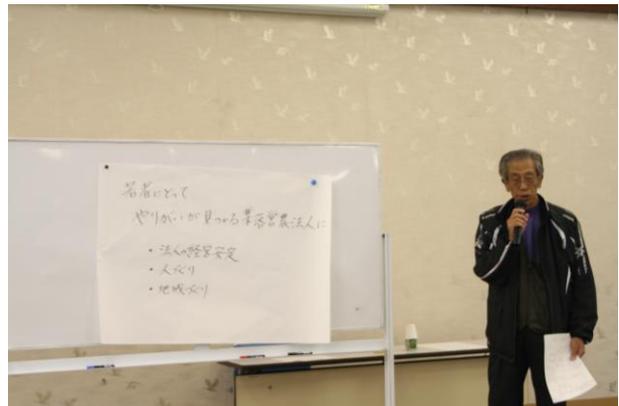
【5班】

●タイトル

「若者にとってやりがいが見つかる集落営農法人に」

●キーワード

法人内の人間関係、法人の就業体制、地域との関わり、福利厚生、複合経営、営業部門の強化、経営方針等
⇒経営安定、人づくり、地域づくり



【6班】



●キーワード

一芸のある人材がいる法人（資格、技術等）、働きがいのある法人（責任感、やる気等）、生活保障のある法人（子どもを育てる環境、ボーナス等）、ゆとりのある法人（長期休暇、定期的な休暇）、笑顔のある法人（頼りになる人がいる等）、他（若い人がいる等）

【7班】

●キーワード

経営（利益の確保等）、人材（やる気、免許等）、コミュニケーション（助け合い、知恵の出し合い、礼儀、同世代の仲間等）、収入（給料等）、生活環境（住居等）
⇒若い人が要求を満たしてくれる法人（魅力的な法人）でありたい。



【8班】



●タイトル

「法人として必要な環境」

●キーワード

若者の意向把握・交流（熱意の共有等）、仕事を任せる体制づくり（希望に応じた対応等）、情報発信・交流（PR等）、経営複合化（少量多品種等）、就業条件（給与制・住居等）

【9班】

●タイトル

「志を共有する地域の仲間」

●キーワード

受け皿（外部からの雇用）、夢（ひらめき等）、仲間（相談できる人等）、やる気・いきがい（目標を立てる）、地域との関わり（祭等へ参加等）、所得（給与等）、力の結集（共同作業等）



【10班】



●タイトル

「若手就農希望者にとって魅力的な集落営農法人とするためには」

●キーワード

年間を通じた生産性向上、ゆとり、コミュニケーション、責任の明確化、人材育成、夢、安定した収入、仲間、6次産業化、生活空間

【まとめ】

J A山口中央会山邊参与が最後に以下のようなまとめを行い、検討部会は終了しました。

- ① 今後10年間で担い手は大きく変わるため、10年後を見通した経営戦略が必要。
- ② 本日のような機会を設け、情報発信していくことがお互いに大事。
- ③ 外部からの人材の確保には、所得・身分・社会保障に合わせて、能力を発揮させる場面を作ること重要。
- ④ 所得を伸ばしていくためには、新しい発想を出すことが必要。
- ⑤ 就農される方は自分の所得は自分で稼ぐという意識を持って学んでほしい。



中央会 山邊参与

